

川崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧表

政策目標1 『川崎町ならではのしごとと安定した雇用の創出』

基本戦略① 農村型スモールビジネスの創出

事業名		内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策ⅰ 起業支援の強化	農村型スモールビジネス起業支援	農村の営みを通じて守られてきた自然景観・農産物、加工物などを活用した仕事の起業支援	農村型起業支援数			0.0%
			—	5 (H31年)	0	【備考】 平成30年度予定
	川崎町農業法人の設立支援	農業者の支援、後継者・担い手の育成のため、農業生産法人の設立を支援し、耕作放棄地の解消を図る。	設立完了年度			0.0%
			—	H29年度	—	【備考】 平成28年度設立後、平成29年度解散
新規就農者への支援・新規農業法人の設立支援(タイプI)	農業を推進するため推進委員会を設置し、農業の担い手の確保及び、新規就農者の支援、農業支援法人の設立運営。就農支援及び農業従事者の後継者育成を含む技術向上を推進する。	農業就業者数減少影響の緩和			100.0%	
		過去5年の減少数 25% (H26年)	過去5年の減少数 18%未満 (H31年)	7%	【備考】 農家数で7%減	
起業家への住居・店舗支援	起業を推進するため、町内で起業する事業者等にチャレンジショップ等による初期投資を抑えた起業を支援する。	チャレンジショップ店舗数			0.0%	
		—	5店舗 (H31年)	0店舗	【備考】 本町商店街空き店舗に限定して助成制度あり	

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策Ⅱ 新規事業創出に向けた企業支援	薬草ビジネスの創出支援	国内産薬草の需要が増えていることに伴い、地元企業と連携し、薬草の栽培・加工および販売を支援する。	薬草栽培農家数等				0.0%
			—	5(法人含む) (H31年)	0	【備考】 未着手	
	特産物・特産品の開発及び販売支援	新規事業創出に向けた起業支援のため、特産品開発、イベント及び既存の特産品とのコラボ、販路開拓を支援する。	特産物・特産品新規開発件数				0.0%
			—	8件 (H31年まで)	0件	【備考】 開発中	
	たけのこ生産者等への環境整備の強化	竹害となっている竹を活用した新たなビジネスを創出するため竹の利活用に関する事業を支援する。	たけのこ生産者等の支援				0.0%
			—	H28年以降 検討	—	【備考】 未着手	

基本戦略② ハード・ソフト両面による産業基盤の整備

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策Ⅰ 事業環境の向上	JR豊前川崎駅周辺のリストラクチャリング事業の推進	自家用車の普及拡大に伴い、消費者ニーズが変化したため、駅舎や商店街の機能を現在のニーズに合わせて再構築することを推進する。	駅周辺の店舗増加数			0.0%	
			—	3店舗増加 (H31年まで)	0		
	学校給食における地産地消プロジェクトの導入	教育の場で地産地消を推進するため学校給食に地元の食材・食品を積極的に使用する。	町内製品の購入率			100.0%	
			—	H28年以降検討	21%		
	循環型バイオマスシステムの導入に向けたプロジェクトの検討	エネルギーの地産地消・ビジネス開拓を目指し、循環型バイオマスシステム導入を検討する。	—	H30年設置	—	【備考】未着手	
	川崎町電力会社の設置による新しいエネルギーサービスの提供	町と地元金融機関の出資により「川崎町電力会社」を立ち上げ、公共施設や町民が発電した太陽光の電力を活用し、電力の小売りを拡大してエネルギーの地産地消を推進する。	準備委員会設置年度			0.0%	
			—	H28年設置	—	【備考】未設置	
超高速ブロードバンド環境の整備推進	より良い事業環境づくりのため、超高速ブロードバンド環境の整備を推進する。	超高速ブロードバンド環境の利用可能件数			8.0%		
		町内一部の地域 360件 (8%) H26年	町内全域 4,500件 (100%) H29年	町内一部の地域 360件 (8%) H30年	【備考】平成31年4月に町内全域利用可能になるよう整備中		
かわさきまちプレミアム商品券発行助成	地域生活者の購買意欲を高め消費拡大を図り、地域経済を活性化させる。	かわさきまちプレミアム商品券販売数			83.3%		
		10,000セット (H26年)	12,000セット (H31年)	10,000セット			

施策ⅰ 事業環境の向上	事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
	独自のエコファーマー制度の検討	農作物のブランド化推進のため、町独自の指標を設定し、その判定・販路の開拓等の業務を行う組織の設立について検討する。	独自のエコファーマー制度検討組織の設立			100.0%
			—	H28年設立	H27年度設立	
	特産物競争力向上のための調査研究の推進	物流システムの検討を含めた特産物の競争力向上のため、専門家を入れて検討する。	特産物競争力向上の可能性検討開始年度			0.0%
—			H28年検討開始	—		
捕獲鳥獣解体処理施設の整備推進	鳥獣被害防止活動の一環として捕獲した鳥獣を地域資源として有効活用する観点から、捕獲鳥獣の食肉処理施設の整備、商品開発、販売などの取組を支援する。	施設整備の検討			0.0%	
		—	H28年以降検討	—		

施策ⅱ 産業人材の育成	事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
	企業・事業者への研修・講習の支援	各企業のリーダー育成のため、商工会議所等と連携し、ビジネス研修会や講習会開催に対して支援する。中小企業大学校等の受講料に対する補助を実施する。	①研修会等の延べ参加者数 ②補助金申請件数			0.0%
			—	①300人/年 ②10件/年 (H31年)	—	
	異業種交流会の開催	人と人、企業と企業のつながりを強化し、ビジネスネットワークを創出するため異業種交流会を定期的で開催する。	異業種交流会延べ参加者数			0.0%
—			400人 (H31年)	—		
農業後継者・担い手への支援	農業後継者及び担い手の安定した生活を確保するため、農業に掛かる費用の一部助成等の支援を推進する。	青年就農給付金申請者数			200.0%	
		1人 (H25年)	3人 (H31年)	6人		

政策目標2 『川崎町への新しい人の流れによる定住促進と交流人口の拡大』

基本戦略① 川崎町の魅力の「見える化」

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策ⅰ 地域資源の掘り起こしとネットワーク化	地域資源マップの作成	地域資源の発掘を行い、今後の施策に活用するため、地域資源マップを活用し、様々な背愛の意見を取り入れ、事業モデルの構築をする。	マップ作成年度			100.0%	
			—	H30年作成	作成済	【備考】 「かわさきワクワク発掘隊」 「そうなん？かわさき」	
	地域資源を活かした事業モデルの構築	地域資源を活かした事業を創出するため、地域資源マップも活用し、様々な世代の意見を取り入れ、事業モデルを構築する。	事業モデル構築年度			100.0%	
			—	H31年以降に構築	H29年 1回	【備考】 平成29年度に町内をバスで巡るツアーを実施	
	多種多様な周遊ルートづくり	地域資源をつなげることによる地域資源の魅力の強化のため、移動手段・季節・年齢・目的等に合わせた地域資源を周遊できるルートの作成を行う。	ルート作成年度			100.0%	
			—	H31年作成	H29年 1回	【備考】 平成29年度に町内をバスで巡るツアーを実施	

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策 ii 川崎町の魅力の発信	川崎自慢ブックの作成・配布・公開	町の魅力をアピールするため、町内で誇れるものを記載した冊子「自慢ブック」を作成し、配布するとともにホームページ等で公開する。	川崎自慢ブックの完成年度			100.0%	
			—	H31年完成	H29年完成	【備考】 平成29年4月「かわさきグルメ手帖」発行	
	SNS等による情報発信の強化	町の魅力をアピールするため、SNSを積極的に活用し、グルメ・イベント情報等のまちの話題を発信する。	フェイスブックページの開設年度			100.0%	
			—	H28年開設	開設済	【備考】 観光協会、De・愛 実施中	
	かがやけ川崎応援寄附金（ふるさと納税）の寄附の推進	かがやけ川崎応援寄附金を通じ、川崎町の産品を全国にアピールするため、かがやけ川崎応援寄附金の推進をする。	寄付金額（年間）			100.0% 以上	
		142万円（H26年）	1,000万円（H31年）	19,980万円（H29年度）	【備考】 199,800,756円		
観光パンフレット等の多言語表記の推進	外国人旅行者の受入環境の充実による利便性の向上を図るため、3ヶ国語（英・中・韓）表記の町内観光パンフレット及びHP等を作成する。	多言語表記の実施年度			100.0%		
		—	H29年実施	実施済			
移住・定住促進イベントへの参加	UIターン移住者に特化した町の魅力をアピールするため、移住定住イベントの参加を積極的に行い、移住を推進する。	移住定住イベント参加回数			0.0%		
		—	2回/年（H31年）	0回			

基本戦略② 川崎町への人の流れの強化と戦略化

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策 i 通学生と交流生徒増加に向けた取組	明蓬館高等学校の拡充の可能性検討	明蓬館高等学校の通学生、スクーリングにおける交流生徒増加のため、多種多様な生徒に対応できる教育環境づくりを検討する。	通学生並びに交流生徒総数			69.6%	
			300人 (H26年)	500人 (H31年)	348人		
	明蓬館高等学校の魅力向上に向けた地域との連携強化策の検討(タイプI)	明蓬館高等学校の魅力向上を目的とし、授業の一環として、地域と関わる活動を推進し、農業体験や就業体験の授業を学校設定科目として単位認可する可能性を検討する。	農業体験履修者数			84.3%	
			40人 (H26年)	300人 (H31年)	253人		

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策 ii 交流人口の拡充と戦略化	交流人口の把握と拡充に向けたマーケティング戦略の構築	交流人口を拡充するため、現状をアンケート等により調査し、戦略の構築を推進する。	マーケティング戦略構築検討組織の設立			0.0%	
			—	H28年以降 検討	—	【備考】 未設置	
	かわさきパン博の拡充	来客数の増加により、町内の消費拡大を図るため、パン博及び周辺施設の受け入れ体制を強化する。	来客数			62.5%	
			20,000人/年 (H26年)	40,000人/年 (H31年)	25,000人/年 (H30年)		
ヘルスエコツーリズムの推進	豊かな自然の中で、ウォーキング等により心身ともに癒され、資源に関する知識と理解を深めることのできるヘルスエコツーリズムを推進する。	参加者数			83.5%		
		800人/年 (H26年)	1,200人/年 (H31年)	1,002人/年 (H29年)	【備考】 ひたひこウォーキング		

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策 ii 交流人口の拡充と戦略化	スポーツ合宿の強化	スポーツ合宿の受け入れ体制強化のため、安宅交流センター近辺の整備を推進する。	参加者数				42.0%
			783人/年 (H26年)	1,200人/年 (H31年)	505人		
	農家レストランや観光農園等集客施設への支援強化	交流人口を拡充するため、集客施設の集客力強化のための支援を行う。	来客数				84.5%
			145,900人/年 (H26年)	219,000人/年 (H31年)	185,000人	【備考】 魚楽園、ラピュタファーム など	
	魚楽園の整備推進	国指定名勝である魚楽園の交流人口拡充や文化価値の維持のための整備を推進する。	来客数				31.6%
45,000人/年 (H26年)			67,500人/年 (H31年)	21,359人			
魚楽園の常設ライトアップの整備	魚楽園でのライトアップを常設で行うことにより、年間を通じての来訪者を増やし、交流人口の拡大を目指す。	夜間入込客数				90.3%	
		2,200人 (H22年)	8,000人 (H28年)	7,230人 (H29年)			
田川広域観光による活性化	田川広域観光協会及び近隣市町村と連携し、田川地区全体で広域観光の振興を目指す。	広域観光の可能性検討開始年度				100.0%	
		—	H28年検討開始	DMO化に向けて体制整備中			

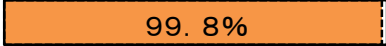
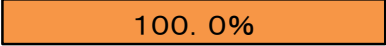
基本戦略③ 定住促進に向けた基盤整備

事業名		内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率	
施策 i 住環境の整備推進	空き家バンク・農地バンクの設置	移住環境情報を整備するため、空き家等の調査を行い、状況を把握するとともに、空き家等の利用希望者に情報提供及び権利者とのマッチングを行うシステムを構築する。	空き家バンク・農地バンクの設置年度			50.0%	【備考】 農地バンクのシステム構築はないが、農業委員会において中間管理機構へ貸農地の情報を提供している
			—	H29年設置	H30年設置 (空き家バンク)		
	賃貸住宅の建設	住環境の向上を推進するため、民間活力を活用し、賃貸住宅等の整備を支援する。	賃貸住宅の建設戸数			0.0%	
			—	10棟 (H31年)	0棟		

事業名		内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率	
施策 ii 移住者への各種支援	移住者への家賃補助制度の検討	移住を促進するため、賃貸住宅に1年以上居住した移住者への家賃の一部助成について検討する。	家賃補助検討組織の設立			0.0%	【備考】 未着手
			—	H29年設立	—		
	学生寮等の建設の検討	移住を促進し、公共施設を利活用するため、多目的宿泊スポーツ施設や近隣大学、明蓬館高等学校の学生寮、スクーリング用の短期宿泊施設等への利活用を検討する。	学生寮建設推進委員会の設置			0.0%	【備考】 未着手
			—	H28年以降検討	—		

政策目標3 『川崎町における若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり』

基本戦略① 魅力ある教育環境の構築

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策 i 教育環境の向上	学力向上への支援強化	全国学力調査で国県平均を下回っている基礎学力を向上させるため、支援を必要とする児童生徒のサポートを行い町全体の学力向上を目指す。	全国学力調査の平均正答率「計」	筑豊圏域平均 △10.5% (H26年)	筑豊圏域平均 ±0% (H31年)	小学校△0.2% 中学校△0.3%	 99.8%
	幼少期教育の強化	町内の保育所で同一カリキュラムを設定して、幼少期教育の強化を行う。					
	子育て支援塾の実施	現在実施している町主催の無料土曜塾を拡充発展させた学習支援を行う。					
	中学校の統合の推進	少子化に対応した活力ある学校教育を推進するため、町内中学校を統合し、中学校の新(改)築整備をする。	統合年度	—	H28年検討開始	統合事業推進中	 100.0%
							【備考】 平成32年4月開校に向けて統合事業推進中

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策Ⅱ 特色ある教育システムへの支援	「小・保・幼」連携の事業の推進	保育環境の活力を活用し、小学校へスムーズに教育環境を移行するため、保育園、幼稚園、及び小学校の連携事業を推進する。	連携事業の実施回数			0.0%	【備考】 教育相談を実施した幼児については小学校への情報提供を行っている
			—	年3回 (H31年)	—		
	放課後の居場所づくりの設置推進	学校・家庭・地域が協力し、安全で安心な環境の中で子供たちを育てるため、放課後に立ち寄れる場所を開設し、様々な体験活動を通じて将来のリーダー育成を図る。	放課後の居場所設置年度			100.0%	【備考】 平成22～24年 小学校にて設置済
			—	中学校の 統合に 合わせて設置	設置済		
小中学校のICT環境整備の推進	児童・生徒を対象に安全で正しい情報活用能力の育成を行い、ICT環境整備を推進し情報機器を活用した授業等を推進する。	ICT環境整備			100.0%	【備考】 電子黒板を全校に導入済	
		—	H28年検討 開始	導入済			
川崎町ならではの様々な仕事体験事業の導入検討	小中学校と連携し、児童・生徒に対し、農業やモノづくりなど様々な仕事を通して自然や命の大切さとともに働くことの喜びを感じさせる体験授業の導入を検討する。	新規事業導入検討組織の設立			100.0%	【備考】 検討中	
		—	H28年検討 開始	検討中			

基本戦略② 若い世代における生活支援の強化

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策 i 結婚に向けた環境整備	出会いの場づくり	結婚を希望しながら出会いの少ない独身男女の出会いを支援するため、婚活イベント等の開催及び情報提供を行う。		—	年2回 (H31年)	2回 (H28年度) 1回 (H29年度)	75.0%
	新婚向け住宅の各種支援	新婚世帯の移住定住を推進するため、敷金等の一部を補助する等の金銭的な支援をする。		—	H28年以降検討	2世帯 (H28年度) 6世帯 (H29年度)	100.0% 【備考】 住居費と引越費用の一部(上限30万円)を助成

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策 ii 子育て環境の整備	出産祝い金の支給	出産を推進するため、川崎町に居住し、出産した世帯に出産祝い金を支給する。		—	H28年以降検討	—	0.0% 【備考】 実施なし
	児童・生徒の医療費助成	子育て世代の移住定住を推進するため、児童・生徒の医療費を助成する。		就学前 (H26年)	中学卒業前 (H31年)	中学卒業年度	100.0% 【備考】 平成29年度達成
	保育料の軽減	一定以上の保育料を払っている世帯に対し、保育料の減額を行う。		軽減なし (H26年)	圏域平均水準 (H31年)	国基準	100.0% 【備考】 国基準に従い多子軽減等を行っている

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策 ii 子育て 環境の 整備	保育環境の充実	子育て世代の移住定住を推進するとともに、働く世代の支援を含めた休日保育等の多様な保育事業の実施について検討する。					0.0%
			—	H29年検討	—	【備考】 実施なし	
	通学定期券の助成	子育て世代の移住定住を推進するため、町内居住者の通学費の一部を助成する。	通学定期券の助成件数				0.0%
			—	H29年以降 検討	—	【備考】 実施なし	

政策目標4 『安全安心な暮らしを営むずっと住み続けたいまち 川崎町の実現』

基本戦略① 住みやすい地域づくりの推進

施策Ⅰ 歴史と文化による アイデンティティの 再構築	事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率	
	日中交流水墨画公募展の 推進	新しい文化の創造、国際交流を推進するため、「雪舟」をキーワードとした文化交流活動を支援する。	公募展への出展数			157作品	62.8%
			200作品 (H27年)	250作品 (H31年)			
	伝統芸能等の維持及び保 存に関する支援	地域の伝統文化を継承するため、関心と理解を深める活動を支援し、心豊かなまちづくりを推進する。	指定無形文化財登録件数(累計)			1件(県指定)	25.0%
1件(県指定) (H27年)			2件(県指定) 2件(町指定) (H31年)				
川崎町文化で町おこしの推 進	地域の文化資源を活用し、郷土愛を育むため文化的で住みやすい町づくりを推進する。	川崎町の文化を学ぶ課外授業への参加者			113人	11.3%	
		—	1,000人/年 (H31年)				

施策Ⅱ 世代間交流の 推進	事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率	
	地域スポーツとしてのグラ ウンドゴルフやカローリングの 推進	心身の健全な発達を促すため、人、情報、世代間の交流による地域コミュニティの活性化を推進する。	大会の参加者数(延べ)			134人	13.4%
			—	1,000人/年 (H31年)			
	マインドスポーツの推進	広い世代で交流し、豊かな心を育むことに加え、思考力や創造力を鍛えることのできるマインドスポーツを推進する。	大会の参加者数(延べ)			26人	2.6%
—			1,000人/年 (H31年)				

【備考】平成29年度「将棋大会」開催(1回)

基本戦略② 住みよい社会に向けた基盤整備の充実

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策Ⅰ 住みやすい環境の整備	世代間ネットワークの構築	世代間交流で高齢者が生きがいを持ち、地域社会に貢献し、子どもたちの豊かな人間性を育むため、ネットワーク環境づくりを推進する。	世代間交流サークル数				0.0%
			—	3団体 (H31年)	0		
	グラウンドゴルフ場の整備	子どもから高齢者まで気軽に楽しめるスポーツであり、あらゆる世代が心身ともに健全に育つことが出来る家庭や地域を作り出すため、世代間交流の場として整備する。	グラウンドゴルフ場の整備年度				100.0%
			—	H28年整備 検討	整備済		
	超高速ブロードバンド環境の整備推進【再掲】	町民の利便性向上や高度情報化社会に適応したまちづくりをするため、超高速ブロードバンド環境の整備を推進する。	超高速ブロードバンド環境の利用可能件数				8.0%
		町内一部の地域 360件(推定) (8%) (H26年)	町内全域 4,500件 (100%) (H29年)	町内一部の地域 360件 (8%) H30年		【備考】 平成31年4月に町内全域利用可能になるよう整備中	
JR豊前川崎駅舎及び駅周辺整備の推進	町民および観光客等の利便性の向上のため、駅営業体制の変更に対応した駅舎等の周辺整備を推進する。	駅利用者数(1日平均)				33.3%以上	
		250人 (H26年)	300人 (H31年)	100人以上			
地域交通対策の推進	住みやすい環境を維持するため、民間事業者に助成することにより、地域交通の確保を推進するとともに、輸送効率等を考慮し、デマンド型交通の導入について検討する。	①路線バス乗客数 ②バス運行回数				① 60.1% ② 78.9%	
		①111,345人 ②15回(平日) 14回(休日) (H26年)	①167,000人 ②20回(平日) 18回(休日) (H31年)	①100,447人 ②16回(平日) 14回(休日) (H29年度)			

		事業名	内容	基準値	目標値 (KPI)	現状	目標達成率
施策 ii 文化環境の維持及び整備	文化財施設等の保護及び維持	地域の伝統文化を継承し、埋蔵文化財や貴重な文化財等を未来へ継承するため、施設等の保存及び維持を支援するとともに考古学的調査研究や活用を検討する。	有形指定文化財数(累計)			78.6%	
			1件(国指定) 2件(県指定) 8件(町指定) (H27年)	1件(国指定) 3件(県指定) 10件(町指定) (H31年)	1件(国指定) 2件(県指定) 8件(町指定)		
	観光文化施設の整備の推進	地域の観光文化資源を活用し、郷土愛を育み、文化的で住みやすいまちづくりをするため、文化施設等の整備を推進する。	観光入込客数			90.0%	
			206千人 (H25年)	280千人 (H31年)	252千人		
	戸山原古墳2号墳の発掘	学術的価値の高い川崎町指定史跡である戸山原古墳1号墳に続き、2号墳の発掘を進め、文化財保護の機運を高めるとともに、古墳まつり等のイベントの充実を図り、観光資源としての活用を推進する。	入込客数			13.4%	
			215人 (H27年)	800人 (H31年)	107人		